

一条地域学校園(一条中学校, 西小学校, 西原小学校, 宮の原小学校)

1 研究テーマ

「児童生徒のつまずき解消」と「教師の授業力向上」を目指した乗り入れ授業の実践



2 研究内容

(1) 乗り入れ授業の工夫

フィードバック的支援【FB的支援:小6のつまずきを中1で指導】とフィードフォワード的支援【FF的支援:中1のつまずきを小6で指導】をしながらつまずきの解消を図る。

- ① 小6のつまずいている学習内容に乗り入れ授業を当てる。中学校教員が「転ばぬ先の杖」の指導をする。【FF的支援】
- ② 乗り入れた中学校教員は、本務校の朝の打合せ等で小学生のつまずきの実態を報告し、その実態に応じて中学校の教科指導を工夫していく。【FB的支援】
- ③ 中1のつまずいている学習内容に乗り入れ授業を当てる。小学校教員が「既習事項を想起させる」指導をする。【FB的支援】
- ④ 乗り入れた小学校教員は、本務校の朝の打合せ等で中学生のつまずきの実態を報告し、その実態に応じて小学校の教科指導を工夫していく。【FF的支援】



●中学校教員による小6算数科への乗り入れ授業



●小学校教員による中1国語科への乗り入れ授業

(2) カリキュラムの地域学校園化とその実践

国語科, 算数・数学科, 会話(英会話)・英語科, 体育科では、地域学校園化がなされたカリキュラムの実践を行う。

- ① 国語科
 - ・本地域学校園では、「漢字」につまずきを感じている児童・生徒が多い。
 - ・「漢字」が小中連携の中心になるように、9年間を見通して年計の修正を行う。
 - ・語句に関しては、生徒個人に差があり、小5・6の漢字を繰り返し学ばせるようにする。
- ② 算数・数学科
 - ・本地域学校園では、「比例・反比例」と「場合の数」につまずきを感じている児童・生徒が多い。
 - ・上記の学習内容については、章末の「学習のまとめ」を1時間増で扱うものとする。
- ③ 会話科(英会話)・英語科
 - ・本地域学校園では、中学校に入学してから「書く」ことにつまずきを感じている生徒が多い。
 - ・小学校では英語を好きになることを中心に、中学校では技能中心に授業を行う。
- ④ 体育科(学校園化の視点)
 - ・小中連携して体力づくりに取り組むため「縄跳び」を考えた。
 - ・中学校には縄跳びの単元がないため、体づくり運動の中に位置づけた。

3 まとめ(成果と課題)

◆ 成果

1 乗り入れ授業の工夫について

- ① 国語科:小5と中1の漢字学習の関連づけが図られ、漢字学習の楽しさを伝えることができた。
- ② 算数・数学科:小中間で学習内容・指導法などの相互理解が図られた。
- ③ 会話科(英会話)・英語科:小中の学習のつながりがわかり、指導に役立てることができるようになった。

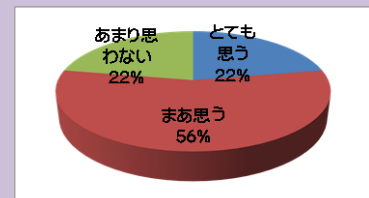
2 カリキュラムの地域学校園化とその実践について

・地域学校園化の視点を入れたカリキュラムを実践することで、つまずきの原因となる分野の支援が進み、つまずきの解消に向けて、取り組みが軌道に乗ってきた。

◆ 課題

・今回乗り入れ授業を担当していない教員も、多くの教科でつまずきの改善が進むことを期待している。次年度以降は、その具体的な方策を検討していく必要がある。

●アンケート「乗り入れ授業は、学力保障に効果がある。」(乗り入れ授業担当者)



●国・数・英に続いて、地域学校園化が図られた体育科の年間指導計画

